



博物館ニュース「SHŪ」

NO. **52**

“SHŪ” News of Tamagawa University Museum of Education

2019年3月20日

玉川大學教育博物館



目次

展覧会への招待	2
報告	3
開館カレンダー・ 利用案内	6

カラニジキジ (『アジア鳥類図譜』(1849-1883)より)

制作：ジョン・ゲールド

原画：ジョン・ゲールド、ウィリアム・ハート

石版手彩色 39.2 × 55.9cm

ジョン・ゲールド(1804-1881)が制作した鳥類図譜は、まず、ゲールドのラフスケッチや指示をもとに、画家たちが水彩による原画を作ります。次に原画を石版に転写し、石版印刷業者が製版と印刷を行います。そして刷りあがった墨刷り石版画に、彩色家が筆で色を加えて完成させました。販売は予約制で、できあがった分冊を予約者のもとに送り、分冊がそろった時点で購入予約者自身が製本をしました。

展覧会への招待

ジョン・グールドの鳥類図譜

—19世紀 描かれた世界の鳥とその時代

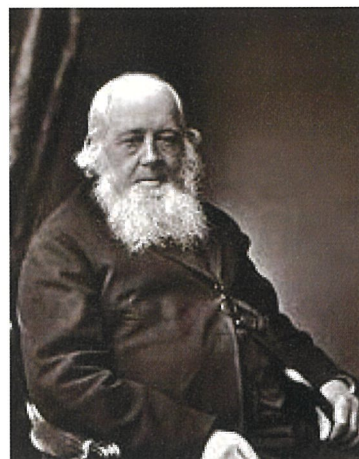
当館では、2019年秋に玉川学園創立90周年記念の特別展として、「ジョン・グールドの鳥類図譜—19世紀 描かれた世界の鳥とその時代」を開催します。

博物学者ジョン・グールド(1804–1881)は幼い頃から自然に親しみ、20歳の時にロンドン動物学会附属博物館に勤務しました。その後当時新しい印刷法として開発された石版画(リトグラフ)の技法を利用した鳥類図譜の制作を手がけました。

グールドが制作したインペリアル・フォリオ判(約56×39cm)の鳥類図譜には、『ヒマラヤ山脈百種鳥類図譜』『ヨーロッパ鳥類図譜』『オオハシ科鳥類図譜』『キヌバネドリ科鳥類図譜』『オーストラリア鳥類図譜』『アメリカ産ウズラ類鳥類図譜』『ハチドリ科鳥類図譜』『アジア鳥類図譜』『イギリス鳥類図譜』『ニューギニア鳥類図譜』があります。玉川学園では、これら鳥類図譜の芸術性、学術性に着目して収集し、当館が全巻所蔵しています。

本展では、ジョン・グールドの鳥類図譜がもつ資料的価値を明らかにするとともに、図譜から今何が解るのかという観点で展示を構成します。展示のテーマは、グールドの鳥類図譜を中心に、「19世紀の博物図譜の成り立ちと技術」「グールドの鳥類学」「19世紀の博物学」に視点を置いた内容を予定しています。

なお、より多くの方々にグールドの鳥類図譜をご堪能いただきたいという思いから、6年ぶりに全巻を展示するとともに、学外にも会場を設け、当館との2か所で順次開催いたします。皆さまのご来場をお待ちしております。



ジョン・グールド(1875年撮影)



オナガカマハシフウチョウ
『ニューギニア鳥類図譜』より

ジョン・グールドの鳥類図譜 —19世紀描かれた世界の鳥とその時代

【学外会場】東京芸術劇場ギャラリー1 東京都豊島区西池袋 1-8-1

2019年10月5日(土)～10月13日(日) 10:00-18:00 (入場は17:30まで)

※7日(月)は、施設の休館日に伴いお休みです

【玉川学園会場】玉川大学教育博物館 第2展示室 東京都町田市玉川学園 6-1-1

2019年10月28日(月)～2020年2月2日(日) 9:00-17:00 (入館は16:30まで)

玉川学園会場では会期を前期・後期に分け、一部展示替えを行う予定です

【関連事業】

◆シンポジウム 2019年10月8日(火) 東京芸術劇場ギャラリー2

「19世紀のジョン・グールド鳥類図譜から今何がわかるのか」(仮称)

◆その他、ギャラリートーク、ワークショップ等を予定

※詳細は、後日当館ホームページ、チラシ等で公表します

報 告

■企画展「明治の教育と博物学」の開催

2018年10月29日から2019年1月27日まで、明治150年を記念した企画展「明治の教育と博物学 こどもたちが学び楽しんだ、自然をめぐるモノづくり」を開催しました。江戸時代の本草学をはじめとし、そこから影響を受けた学問や博物図譜などをもとにして現代まで続く博物学の流れをたどることができるよう、「江戸時代の博物学」、「学校教育のはじまりと博物学」、「博物から理科へ」、「博物学と博物館・博覧会」、「博物学と明治期の錦絵・本」の5章から成る展示を行いました。特に、博物学では生態を伝えるためとして描かれていた絵は、明治になって教科書や教材の美しい図となって子供たちの教育を支えてきました。また、その内容も専門的な記述が見られ、江戸・明治期の教育水準の高さに驚く方々も多かったようです。

関連事業として、ハンズオン・体験講座

を2回、野外観察会を2回、ギャラリートークを4回開催しました。会期中の開館日は62日間で、入館者は1400名でした。本企画展の図録(カラーA4判96頁)は、1冊1500円で販売しています。

ハンズオン・体験講座

「作ってみよう!和装本風ノート」

11月18日と12月9日に開催した本講座では、最初に実際に江戸・明治期に使用されていたホンモノの和綴りの教科書等を、当時の様子を思い浮かべながら触れていただき、その後、当館学芸員の指導のもと、「四つ目綴り」のノートを制作しました。寸法を測り穴をあけて、こよりを作り、針と糸で工夫して綴じていくという慣れない作業でしたが、参加された皆さんはほぼ時間内に作り上げ、楽しまれた様子でした。参加者は、のべ34人でした。



野外観察会

「玉川学園の植物を楽しむ丘めぐり」

①秋の七草、カエデの紅葉をめぐる

11月23日（金）の勤労感謝の日、元玉川学園小学部教諭で、玉川学園構内の植物にも詳しい佐藤邦昭先生を講師にお迎えし、「秋の七草とカエデの紅葉をめぐる観察会」を開催しました（参加者：14人）。

当館に集合し、まず学芸員による前期の展示資料『秋野七草考』（北野秋芳）の解説の後、「丘めぐり」へ出発しました。秋の七草は「萩・尾花・葛・撫子・女郎花・藤袴・桔梗」と言われていますが、当日は3種類を実際に見て確かめました。学内ではまた、多くのカエデの種類が見られます。この日は8種類のカエデの紅葉を楽しみ、参加された皆さんは、各々カエデの葉を採集しながら進み、それぞれの形態の特徴をじっくり観察していました。博物館を出発して正門までおよそ2時間の玉川学園丘めぐり、さわやかな秋の風に吹かれながら講師と楽しく学ぶひとときを過ごしていただきました。



野外観察会

「玉川学園の植物を楽しむ丘めぐり」

②春の七草をめぐる

2019年1月12日（土）、前回に引き続き佐藤邦昭先生を講師にお迎えし、「春の七草をめぐる観察会」を開催しました（参加者：21人）。

当館学芸員による後期の展示資料『春野七草考』（同）の解説の後、博物館を出発しました。この日は学内の人もあまり立ち入らないエリアの丘めぐりとなり、参加者の皆さんは玉川学園の広い構内に興味津々の様子でした。春の七草は、現在では「芹・薺・御形・繁縷、仏座・菘（蕪）・蘿蔔（大根）」とされていますが、平安時代ごろから食べられているのは芹だけで、その他は時代や地域と共に移り変わっていったというお話に、参加者は驚いていました。学内をめぐって摘んだ「春の七草」をお土産に、それぞれ帰途につかれました。

※「丘めぐり」について
玉川学園では、約61万㎡の広いキャンパスの中で自然観察などすることを「丘めぐり」と呼んでいます。



■縄文土器の出前授業

2018年9月13日、玉川学園の低学年（小学部）4年生3クラスの美術（図画工作）科で、当館の縄文土器を持参して出前授業を行いました。「縄文プロジェクト」と題する、素焼きの装飾粘土板を制作する単元の参考に、実物の縄文土器に触れてもらうことを、ねらいとしたものです。

授業では、まず学芸員が縄文土器とは何か、なぜ、どのように文様をつけたのか、等の説明を行い、用意した施文具で、粘土に文様をつけてみました。様々な撚り方をした縄や、棒に縄を巻いたものを回転させるとどのような文様が現れるかや、回転の向きを変えることによる表現等を実演しました。また、縄文土器といっても縄目以外の文様をつけたものもあり、粘土紐の貼り付けや、ヘラ状工具や貝殻での施文も紹介しました。

次に児童たちにはグループに分かれ、当館で用意した縄文土器の破片を、自由に手に取って観察してもらいました。その際は、仲間同士で気付いたことを盛んに話し合い、中

には破片の接合を試みる姿もありました。巡回している学芸員にも次々と質問を寄せてくれ、子どもたち興奮しながら学んでいる様が、ひしひしと伝わってきました。

担当の先生から後日、自由制作であったものの、縄文土器を意識した作品を作った児童が多かったと、お知らせいただきました。

■資料の貸出し

- ・九州国立博物館「全国高等学校考古名品展2018」（開催期間：2018/7/21（土）～9/9（日））本部台遺跡出土深鉢ほか 計3点
- ・練馬区立石神井公園ふるさと文化館「激動の幕末 in 練馬」（開催期間：2019/1/26（土）～3/17（日））子供遊角力ほか 計11点
- ・青森県立美術館「子どものための建築と空間展」（開催期間：2019/7/27（土）～9/8（日））亜鈴、球竿、幻灯機など 計11点

■博物館実習

通信教育課程「学芸員スクーリング」
2019年2月7日～12日 36名



統計（2018年4月～9月）

開館日数	119日	入館者数	1629名
収集			
〔資料〕	日本教育史	136件	
	芸術	52件	
〔図書〕	和書42冊	洋書0冊	
〔定期刊行物〕	和雑誌	33冊	
	洋雑誌	11冊	

資料をご寄贈いただきました（順不同・敬称略 2018年8月～2019年2月）

鈴木 達也	鈴木満・青木純子・青木美知枝作絵画作品	一括
林 定弘	シュヴァイツァー関係資料	2点
遊佐 肇	学園史関係資料	6点
高橋 昭	学園史関係資料	36点
干場 英弘	教育史関係資料	25点
田中 俊郎	教育史関係資料	1点

ありがとうございました。

2019年度上半期 開館カレンダー

2019年4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

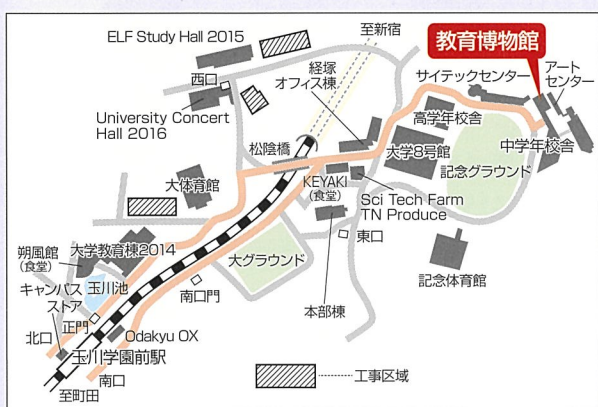
9月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

休館日

第1展示室(日本教育史常設展示)のみ公開

※ この予定は、大学授業・行事日程等により変更することがあります。
 詳細は当館ホームページをご覧ください、電話等にてお問い合わせください。



交通手段

小田急線「玉川学園前」駅下車 徒歩 15分
 駅南口を出て、線路沿いの道を新宿方向に進むと、玉川学園の校門(南口)に行き当たります。博物館の建物の位置は、校門の案内所でお尋ね下さい。

(来館者用駐車場はありません。また校内での園児・児童・生徒・学生の安全のため、お車での来館をご遠慮下さい。)

利用案内

- 開館時間** 午前9時～午後5時
 (入館は午後4時30分まで)
- 休館日** 日曜日・土曜日・祝休日・玉川大学の定める休日・展示替期間
 (展覧会会期中並びに日曜日・土曜日及び祝休日に大学の通常授業や学校行事が行われる場合、当館も臨時に開館することがあります。詳細はお問い合わせください。)
- 入館料** 無料

博物館ニュース SHŪ No.52

2019年3月20日

編集・発行 玉川大学教育博物館

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

TEL 042-739-8656 FAX 042-739-8654

www.tamagawa.jp/campus/museum/

『SHŪ』とは『集』、さまざまな「集められたもの」をめぐり、多くの人々の「集いの場」になることを目指して名づけたものです。